

# 年頭所感

## 変化の時代に、人が育む希望を



全日本私立幼稚園連合会 会長 尾上正史

新しい年を迎えるにあたり、皆さまに心よりお慶び申し上げます。

2026年、世界はかつてないスピードで変化を続けています。AIやデジタル技術の進化、気候変動、少子化、国際社会の分断——。こうした変化の波の中で、私たちはいま一度「人が育てる」という行為の意味を見つめ直す時を迎えていたのではなかろうか。

AIの能力はこの一年で飛躍的に向上し、人間の知的営みの多くを模倣し、あるいは凌駕しはじめています。しかし、AIには決して代替できない領域があります。それは「人の心を感じ取る力」、そして「他者を思いやり、共に生きようとする力」です。教育、とりわけ幼児教育は、この“人間らしさ”を次代へ手渡す営みであり、どれほど社会が技術的に発展しても、その価値は失われることはありません。

全日本私立幼稚園連合会が掲げる「こどもがまんなか社会」の実現には、こうした教育の原点への回帰が不可欠です。幼児教育は、単に初等教育への準備段階ではなく、人が人として社会の中で生きるための最初の学びの場です。そこには、知識や技能では測れない「関係性の力」「感情の育ち」「つながり

の知性」が息づいています。

保育者は、その日常の中で子ども一人ひとりの小さな成長を見つけ、喜び合い、支える専門家です。AIやシステムでは決して置き換えられない、社会の根幹を支える“人のインフラ”としての存在であると、私は考えています。

また、いま世界が分断や孤立の時代を迎える中で、幼児教育の現場には「対話」と「共感」を育む文化があります。子どもたちは互いに顔を見合わせ、声を交わし、手をつなぎながら他者との関係性を学んでいきます。そこには、“ともに生きること”的希望が確かに存在します。

私たち大人がこの姿に学び、社会のあり方そのものを見つめ直すことこそ、教育の未来につながる道ではないでしょうか。

本年も、全国の先生方がそれぞれの地域で子どもたちと向き合い、未来を信じて歩みを進めておられることに、心から敬意を表します。どんなに変化の激しい時代であっても、希望はいつも人の中にあります。

子どもたちの笑顔を守り、育ちの喜びを共有できる一年となることを願い、年頭のご挨拶といたします。

## 視点

# 子どもの心が育つ 魔法の言葉がけ「ペップトーク」

日本ペップトーク普及協会代表理事

岩崎由純



ペップトークのPEPは、元気、活気、活力などを意味する単語です。何かの略ではありません。これに「話す」という意味のTALKがついて、ペップトークになると、「激励演説」と訳されています。スポーツの世界では、試合前や試合中に、監督やコーチだけでなく、キャプテンやリーダーが選手をその気にさせるショートスピーチのことです。

2023年のWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で日本代表が世界一になりました。毎試合前に栗山監督からの素晴らしいペップトークが行われ、決勝戦当日の大谷翔平選手のペップトークはマスコミでも大きく取り上げられました。試合前、対戦相手アメリカのスーパースター、マイク・トラウト選手のサインボールをもらって喜んでいたチームメイトに対してまず「僕から一つだけ、憧れるのをやめましょう!」と切り出します。この台詞が、流行語大賞にノミネートされたので覚えておられる方も多いかも知れませんね。

その後、確かに相手チームには誰も知っているような超有名選手たちがいることを認めたうえで、「憧れてしまっては超えられない…」と理由を述べ、「僕らは超えるため、トップになるためにきた。」と目的を語り、「今日一日だけは、彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけ考えていきましょう!」とみんなにして欲しいことを言って、「さあ、行こう!」と叫びました。その瞬間、選手だけでなく、その場にいたスタッフも全員が「シャー!」と盛り上がり、大きな拍手が沸き起こりました。

とっても短くて分かりやすく、前向きな言葉でみんなをその気にさせるショートスピーチは、スポーツ界だけでなく、教育や子育ての場面でも使えるのではないかでしょうか?

一般的なペップトークは

- ① 事実の受け入れ
- ② とらえ方の変換
- ③ して欲しい変換
- ④ 背中のひと押し

の4ステップで構成されます。

例えば、発表会や試験の前で緊張している子どもに対して「①初めての発表会は緊張するよね」と事実を受け入れ、「②それはあなたが本気になっているからだよ」と、とらえ方を変換(換言)して「③今日までの練習とあなたの本気を信じて」として欲しい行動を言葉にして「④あなたならできると信じているよ!さあ、行こう!」と背中のひと押しをします。

スポーツで相手の方が圧倒的に強いときも、「①向

こうが強いチームって分かってるよね」と事実を受け入れ「②だからこそ、自分たちの力を試すチャンスだよ」と、とらえ方を変えて「③今日までの練習を信じて、今ある力を出し切ろう」として欲しいことを前向きな言葉にして「④さあ、行こう!」と背中のひと押しをします。

大事なのは、②のとらえ方変換や、③のして欲しい変換は、前向きな表現で、子ども達にできること、またはできそうなことを言葉にする点です。ついつい禁止用語や、ダメ出しが多くなりがちな子育ての現場でも、「ものを壊さないで」とか「忘れ物しないで」と、して欲しくないことを言いがちですが、「ものは大切にしようね」とか「持ち物をちゃんと確認して準備しようね」と、して欲しいことを言葉にします。心理学では「ピンクの象をイメージしないで」というと、ピンクの象をイメージすることが例として挙げられています。「廊下で走らないで!」は、走っている姿をイメージするわけですから、「廊下は静かに歩きましょう!」と、して欲しい変換をします。

大谷翔平さんのペップトークも、対戦相手のサインボールをもらって喜んでいるチームメイトに「①憧れるのをやめましょう!」「②僕らは超えるため、トップになるためにきたので」「③勝つことだけ考えていきましょう!」「④さあ、行こう!」の4層構造になっています。これは注意する時のパターンとして応用できそうです。道路に飛び出しそうになったお子さんに「①飛び出さないで」と注意して「②車が来たら危ないでしょ」と理由を言って「③手を挙げて横断歩道を左右確認しながら渡ろうね」として欲しいことを言葉にして「④あなたならできると先生は知ってるよ」とアイ・メッセージで背中のひと押しをして差し上げたらどうでしょう。ペップトークの考え方が、幼児教育の現場でもお役に立てば幸甚です。



## プロフィール

岩崎由純(いわさき・よしづみ)

日本体育大学を卒業後、ニューヨーク州にあるシラキューズ大学大学院で修士課程を取得。米国で公認アスレティック・トレーナーとなり、コロラドにある米国オリンピック・トレーニングセンターやNFLのフィラデルフィア・イーグルスなどで研修を積んで帰国。現NECレッドロケッツのアスレティック・トレーナーとして25年間活動。92年にはバルセロナ五輪でナショナルチームにも帯同。現在は、スポーツ、ビジネス、そして教育の世界でもペップトークの普及のため年間240回を超える講演をしている。